

3 文化の違いへの理解からつながる

事例 8

「箸を使わないの？」
～多様な生活スタイルを知る機会を大切に～

5歳児 10月(在日5年)

こんな時、 どうするの？

9月から転園してきたA児。生まれた時から日本で生活しているのに日本語はある程度理解できるが、食事の際、家庭では箸を使わない生活スタイルであった。

給食の際、A児が米飯をスプーンで食べている様子を見て「箸を使わないの？」と、クラスの友達が何気なく聞くと「使えるわ！」と怒ったように答え、ぎこちなく箸を持ち食べようとしていた。保育者はスプーンでの食事の経験が多いと思い「スプーンを使ってもいいんだよ」と声を掛けるが、頑なに箸を使おうとしていた。



こうしたよ！

保育者は、食事の仕方や食具の使い方について子供たちの考えを聞いてみようと思い「スプーンやフォークは使ったらいけないのかな？」と、問いかけた。子供たちは「スープはスプーンを使って食べる」「ご飯は箸で食べるけれど、カレーはスプーンで食べるよね」「手で食べる人も見たことあるよ」など知っていることや、経験のあること等を伝え合った。



その後も、保育者は日々の保育の中で、運動会で使った万国旗を用いたり、A児の好きな料理を聞いたりしながら、子供たちが興味をもった国の食文化や生活スタイルについて話し、給食を食べながら日本食についても話していった。

食具の使い方について話し合うことで、いろいろな食事の仕方があることに気付いてほしいと思いました。



A児も周りの友達も、互いの生活スタイルについて知り、親しみの気持ちをもつようになりました。



子供たちは、給食のメニューを見ながら「今日は何を使って食べる？」と、A児と話して考え合う姿も見られるようになった。



【会話を楽しみながら食事をしている様子】

子供同士の関係が深まってくると「Aくん、箸使うの上手だね」とA児が箸を使う姿を認めたり、進んで箸を使って食べようとしたりする子もいた。A児もスプーンや箸を食事に合わせて使い、笑顔で食事をする姿が増えた。

A児にとって認められることがうれしく自信となりました。また、箸を苦手としている子も使ってみようとする意欲が高まりました。



ここが大事！

多様な生活スタイルを知ることが、文化の違いを受け止める心を育むことにもつながります

いろいろな料理があり、食べ方について知ることが“多様な生活スタイル（文化）がある”と文化の違いを受け止めるきっかけとなります。園生活の中では、文化の違いによる戸惑いを抱く場面もあります。そのような場面を保育者は見逃さず、子供たちが多様な生活スタイルや文化との出会いの機会としていけるように努めていきましょう。

コラム 給食を通して他国の食文化に触れています

県内の学校給食では、様々な国で親しまれている料理を給食向けにアレンジして提供しているところがあります。万国博覧会やアジア・アジアパラ競技大会をきっかけに、食を通して、様々な国に興味関心が広げられるよう取組の工夫をしています。

＜西尾市学校給食センター作成のタイ料理の啓発資料＞

